



報道関係者各位

TOMO KOIZUMI、水村里奈、日野浩志郎（goat 主宰）、 角銅真実、ジュリア・ショートリードらが アートウィーク東京「AWT BAR」とコラボレーション

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催する「アートウィーク東京(略称:AWT)」は、2024年11月7日(木)～11月10日(日)の会期中に特設の「AWT BAR」で開催するプログラムを追加発表します。TOMO KOIZUMI とコンテンポラリーダンスのコラボレーションや、goat 主宰で音楽家・YPY としても知られる日野浩志郎が作曲を手がけるサウンドインスタレーションやパフォーマンスなど、アートをさまざまな角度から楽しむプログラムを提供します。



左上から時計回りに、小泉智貴、水村里奈、ジュリア・ショートリード、角銅真実、日野浩志郎

TOMO KOIZUMI×コンテンポラリーダンス

衣装とダンスが生み出す「LIVING STATUE（生ける彫刻）」

ラッフルを大胆にあしらったドレスで知られるファッションブランド「TOMO KOIZUMI」と、コンテンポラリーダンサーで振付家の水村里奈が、「AWT BAR」を舞台にコラボレーション。AWT がアートバーゼルと共催するこのイベントでは、水村が TOMO KOIZUMI の衣装をまとい、パフォーマンスを披露します。

TOMO KOIZUMI のデザイナーである小泉智貴は、トップスタイリストのケイティ・グランドに見いだされて本格的な海外進出を果たし、そのデザインはレディー・ガガやサム・スミス、ビョークらを魅了。近年はアーティストとして個展を開催するなど、ファッションとアートを越境する取り組みを続けています。

一方、コンテンポラリーダンスを披露する水村は、Aimer（エメ）を始めとする数々のアーティストのMV に出演し、「CDTV ライブ！ライブ！」を始め多くのライブの振りつけも担当。衣装とダンスが生み出す「LIVING STATUE（生ける彫刻）」がAWT BAR の有機的なデザインと呼応する一夜限りのパフォーマンスをお見逃しなく。

小泉智貴 コメント

都会のランドスケープを表現した会場で、やわらかで有機的なシェイプを持った TOMO KOIZUMI のカラフルな衣装を纏ったコンテンポラリーダンサーが“生ける彫刻”としてのパフォーマンスをする。ファッションとしてだけでなく、ソフトスカルプチュアとして解釈することのできるテキスタイル作品だ。特徴的な衣装を存分に活かした蝶のような動きは、壮大な自然を想起させる音楽と共に会場の観客の目を掴むだろう。



Photo by Packychong Song

小泉智貴（こいずみ ともたか）

デザイナー、アーティスト。1988年、千葉県生まれ。14歳より独学でドレス作りを始める。2011年、千葉大学在学中に自身の名を冠するブランド TOMO KOIZUMI を立ち上げ、日本を中心に歌手や広告の衣装デザインを手がける。2019年、初となるファッションショーをニューヨークで開催。2021年、東京オリンピック開会式にて国歌斉唱の衣装を担当。同年、毎日ファッション大賞を受賞。ドレスデザイナーとして活動する傍ら、2022年からは美術作家としてもコンテンポラリーアートの製作を開始。2023年12月に初となる個展「Tomo Koizumi」を開催し、活躍の幅を広げ続けている。



水村里奈（みずむら りな）

コンテンポラリーダンサー、振付家。有機的でタイムレスなダンススタイルを持ち味に、アート、カルチャー、ファッションといった多彩なジャンルを自由に横断し、活躍の場を広げる。ライブパフォーマンスやミュージックビデオ、ファッションショーでの振付・出演をはじめ、独自の動きの発想力を生かしたモデル出演など、ダンスの枠を超えたクリエイティブシーンで、新たな表現の可能性を追求している。

サウンドインスタレーションとパフォーマンスで楽しむ AWT BAR

国内外のアートファンが集う憩いの場として南青山に特設する AWT BAR。会期中は「EMMÉ」の延命寺美也によるフードやアーティストとのコラボレーションカクテルに加え、サウンドインスタレーションやグラスハーブによるライブパフォーマンスも楽しめます。

作曲を手がけるのは、リズムアンサンブル・goat の主宰で電子音楽ソロプロジェクト・YPY としても知られる日野浩志郎。観客を交えたライブパフォーマンスを披露するのは、音楽家・打楽器奏者の角銅真実と日本とカナダをルーツにもつシンガーソングライターのジュリア・ショートリード（Julia Shortreed）です。

ランドスケープアーキテクトの戸村英子が設計を手がける今年の AWT BAR の特徴は、うねった大地のような有機的な形状。都市に隠れたランドスケープを表現したこの意匠への応答として、日野は都市に潜む音を採用し、電子音に翻訳してインスタレーションに取り入れました。その音色が戸村の設計と重なり合い、バーでの体験に変化を生み出します。

サウンドインスタレーション

Sound installation for the Eiko Tomura's landscape

作曲：日野浩志郎（goat / YPY）

サウンドインスタレーションは、空間と音によって構成されるアートのかたち。AWT BAR では、日野浩志郎が環境音を採り入れて作曲したサウンドが、ランドスケープアーキテクトの戸村英子が設計したバーの空間と重なり合い、ひとつの作品を生み出します（サウンドインスタレーションは常時展開されます）。

日野浩志郎 コメント

都市ではそこら中に音が溢れ、飽和している。いくら美しい音が含まれていても、耳をすまし、音を楽しむという意識を持つことは難しい。ランドスケープアーキテクトの戸村英子は、機能的に整えられたフラットな空間に起伏やうねりをつくり、都市に隠れたランドスケープを可視化させることで人と人を繋げる憩いの場をつくり出した。そのコンセプトにのっとり、都市にひっそりと隠れている音を拾い集め、電子音に翻訳してインストールする。空間に鳴る音は単に BGM として機能するだけでなく、ふと見つけた虫の声に耳を澄ますように、自ら音の楽しみを発見できるものでありたい。

パフォーマンス

Glass harp music for the Eiko Tomura's landscape

作曲：日野浩志郎 (goat / YPY)

パフォーマンス：角銅真実、ジュリア・ショートリード



角銅真実（左）とジュリア・ショートリード（右）

観客を交えたライブパフォーマンスを行なうのは、音楽家・打楽器奏者の角銅真実と日本とカナダをルーツにもつシンガーソングライターの Julia Shortreed (ジュリア・ショートリード)。現代音楽の要素をベースに打楽器奏者として活動し、細野晴臣を始めとするさまざまなアーティストとコラボレーションしてきた角銅と、映画への楽曲提供やエレクトロユニット・Black Boboi のメンバーとしても活動する Julia Shortreed によるコラボレーションをお見逃しなく。

日野浩志郎 コメント

大地のような、お皿のようなランドスケープ。集まる人々が食や音、交流を楽しむ憩いの場。「Glass harp music for the Eiko Tomura's landscape」は、場・食・音を繋げ、それらが寄り添い音楽として昇華することを意図している。演奏に使われるのは、グラスに水を入れ濡れた指でグラスを擦って持続音を鳴らす「グラスハープ」。サウンドインスタレーションが鳴る中、音楽家の角銅真実と Julia Shortreed が観客にグラスを配り、両者の指揮のもと演奏をしてもらう。そのサウンドは五線譜で決められたようなものではなく、パフォーマンスの度に表情を変え、その時々新しく生まれる音楽となるだろう。

アーティストプロフィール：



Photo by Dai Fujimura

日野浩志郎 (ひの こうしろう)

音楽家、作曲家。メロディ楽器も打楽器として使い、複数拍子を組み合わせさせた作曲などをバンド編成で試みる「goat」や、電子音楽ソロプロジェクト「YPY」等を行う。主な作曲作品は、多数のスピーカーや移動する演奏者を混じえた全身聴覚ライブ「GEIST(ガイスト)」(2018-)の他、古舘健や藤田正嘉らと共に作曲した「Phase Transition」(2023)、等。振付師 Cindy Van Acker によるダンス作品「Without References」等の音楽制作を行う。



角銅真実 (かくどう まなみ)

音楽家、打楽器奏者。長崎県の山と川に囲まれ育つ。マリimbaをはじめとする様々な打楽器、自身の声、言葉、身の回りのものを用いて楽曲制作やパフォーマンスなど自由な表現活動を展開している。2024年1月に最新アルバム『Contact』をリリース。



ジュリア・ショートリード

シンガーソングライター、サウンドアーティスト。日本とカナダをルーツに持ち、東京を拠点に活動する。アシッドフォーク、アンビエント、エレクトロを融合させ、ノスタルジックな音と声で紡ぎ出す独自の世界観で制作を続ける。2018年に小林うてな、ermhoiとユニット Black Boboi を結成。ソロでは、2021年1月にファーストアルバム『Violet Sun』を発表した。映画への歌唱、楽曲提供の他、ベルリン在住アーティスト Rosa Anschutz とのユニット Quantum Orange として2024年7月に1st EP『DIP-DYE』をリリース。

会場：emergence aoyama complex／港区南青山 5-4-30 （バス停：D1、D9、E3）

サウンドインスタレーション：AWT 会期中常時

パフォーマンス：11月9日（土）①14時～ ②16時～ ③18時～

11月10日（日）①15時～ ②17時～ ③19時～

参加費：無料

ランドスケープアーキテクトの戸村英子が設計する「AWT BAR」



戸村英子による「ランドスケープがつくる BAR」の完成イメージ図 © eiko tomura landscape architects

国内外のアートファンが集う憩いの場「AWT BAR」の設計はランドスケープアーキテクトの戸村英子が担当します。テーマは「ランドスケープがつくる BAR」です。

ランドスケープは、人と自然がつくる、私たちを取り囲む風景や景色や環境のこと。自然の織りなす有機的なランドスケープが、東京都心にたたずむ AWT BAR という空間につくりだされます。

荒川ナッシュ医、小泉明郎、束芋とのコラボレーションカクテル



荒川ナッシュ医「旅立つ秋」



小泉明郎「Ritualistic People：祭民」



束芋「白は怖い」

荒川ナッシュ医「旅立つ秋」 国立新美術館で展覧会を開催

荒川ナッシュが大好きなポップスターの曲名を冠した、ボタニカルなブラウン・カクテル。世界のアート愛好家に向けた「旅立つ」前一杯として考案。

小泉明郎「Ritualistic People：祭民」 無人島プロダクションで展覧会を開催

「味覚の不思議」をコンセプトにした、赤い氷が特徴的なカクテル。一緒に提供されるインストラクションに沿ってカクテルを飲み進めながら、見た目や香り、味の変化をお楽しみください。（制作協力：漆原正貴）

束芋「白は怖い」 ギャラリー小柳で展覧会を開催

束芋が白という色のイメージに感じる「怖さ」を表現したミルクベースの甘いカクテル。束芋がカクテルに合わせてデザインしたコースターも数量限定で配布予定

「EMMÉ」の延命地美也が手がけるフード



EMMÉ・延命寺美也によるフード2種

新ゴボウとベーコンのケーキサレ（画像右）：新ゴボウと自家製のベーコンを使ったケーキサレ。新ゴボウがもつ土の香りが大地をイメージさせます。カリカリとした食感のフライドゴボウに花穂紫蘇のアクセントを添え、バラのような形に焼き上げました。

タタンモンブラン（画像左）：旬の紅玉りんごを3時間じっくり焼き上げたタルトタタンに、和栗のクリームを合わせました。クリームは花びらのように絞り上げ、秋に咲く一輪の花を表現。蝶のシガレットを添えて仕上げています。

「AWT BAR」開催概要

会場：emergence aoyama complex／港区南青山 5-4-30 （バス停：D1、D9、E3）

会期：11月7日（木）～10日（日）

営業時間：10:00～22:30 （ラストオーダー22:00）

料金：入場無料、フード1種500円（税込）、カクテル1杯1,000円（税込）

<https://www.artweektokyo.com/bar/>

今年のキーカラー、ピンクとグリーンのトートバッグを販売中

アートウィーク東京では、例年イベントロゴを使ったトートバッグをしています。”場や人のつながり”を表現するキービジュアルをあしらったトートバッグは、公式グッズサイトで、数量限定で販売します。

価格：2,500円（税込）

サイズ：本体／38x42cm 持ち手／67cm

Designed by Atsuki Kikuchi

公式グッズサイト：<https://artweektokyo.theshop.jp/>



アートウィーク東京をもっと楽しむ

国内のアートイベントでの体験をサポートする無料アプリ「Japan ART EX」を使えば、アートウィーク東京がもっと楽しく、もっと便利に。「MAP」によるAWT BUSのルート確認や参加施設の情報入手、限定クーポンなどを提供します。また、AWTの会期中はアプリを使ったスタンプラリーも開催。AWT参加施設にあるQRコードを読み取ることでスタンプをゲットできます。6つのバスルートのいずれか1ルートでスタンプを全部集めた方には、オリジナルのトートバッグのプレゼントが。ぜひご参加ください。



アプリの詳細は下記 URL をご確認ください。
japan ART EX (URL) : <https://registart-app-static-prod.web.app/lp/>

アプリのダウンロード
App Store、Google Play にて無料で配信します。
AWT 公式サイトメニュー画面からもダウンロードサイトへのリンクを掲載予定です。

アプリに関する問い合わせ先：株式会社レジストアート 電話番号: 03-5766-1335

アートウィーク東京について

アートウィーク東京は、東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度のイベントです。今年は東京を代表する 53 の美術館・ギャラリーがそれぞれ多様な展覧会と共に参加者を迎え、各施設を無料のシャトルバス「AWT BUS」がつなぎます。

また会期中は「買える展覧会」である「AWT FOCUS」や映像作品プログラム「AWT VIDEO」、建築 × 食 × アートのコラボレーションを感じられる特設の「AWT BAR」など、AWT 独自の企画も開催。様々な体験を通じて東京のアートの「いま」を感じられる 4日間です。

※バスルートや参加施設の詳細は AWT 公式サイトにてご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/bus/>

開催概要

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）
会期：2024年11月7日（木）～10日（日）（4日間）10:00～18:00
会場：都内53の美術館／インスティテューション／ギャラリー
AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場
主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム
提携：アートバーゼル（Art Basel）
特別協力：文化庁

アートウィーク東京モバイルプロジェクト

名称：アートウィーク東京モバイルプロジェクト

会期：2024年11月7日（木）～10日（日）（4日間）10:00～18:00

主催：東京都／アートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会

料金

AWT BUS の乗車無料。

参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。

AWT FOCUS の入場一般 1,800 円（前売 1,500 円）、学生・子供無料。

公式サイト <https://www.artweektokyo.com/>

Instagram [@artweektokyo](https://www.instagram.com/artweektokyo)

Facebook [@artweektokyo](https://www.facebook.com/artweektokyo)

X [@ArtWeekTokyo](https://twitter.com/ArtWeekTokyo)

YouTube [@artweektokyo6594](https://www.youtube.com/@artweektokyo6594)

コーポレートパートナー

オフィシャルパートナー：SMBC グループ

ホテルパートナー：オークラ東京

ビバレッジパートナー：ルイナール

サポーティングパートナー：公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

サポーティングパートナー：クインテセンシャリー・ジャパン

メディアパートナー

リードメディアパートナー：フィナンシャル・タイムズ

The Art Newspaper

日本経済新聞社

Artsy

Arts of the Working Class

ArtReview

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンツポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティーの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とするプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティーの体験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、小川秀司（東京都現代美術館副館長）、片岡真実（森美術館館長）、小松弥生（東京国立近代美術館館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] 理事長、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ（アメリカ）、パリで開かれるアートフェアには、世界各地から大勢のアートファンや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com/>）

<報道関係のお問い合わせ>

アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc）

担当：会津・芳賀・林

TEL：03-5791-1500

Email：awt_pr@wag-inc.co.jp